

A Coordination Game Model of Charitable Giving and Seed Money Effect

初見 健太郎 (はつみ けんたろう)

大阪大学大学院経済学研究科

egp020hk (アットマーク) mail2.econ.osaka-u.ac.jp

2009年1月13日

要旨

公益団体、非営利団体などが慈善活動、社会貢献活動のプロジェクトのために寄付を募るとき、はじめから広く一般に対して寄付を懇請するよりも、予め水面下で一部の慈善家から寄付 (seed money) の約束を取り付けておき、その事実を合わせて一般に公開すると一般からの寄付額も増えるという経験則が知られている (Andreoni, 1998)。また、この経験則はフィールド実験によっても支持されている (List and Lucking-Reiley, 2002)。本論文ではこの経験則についてのゲーム理論による裏づけを行った。

まず、慈善的寄付を行う人がその選好に“準利他性” (impure-altruism、他に joy-of-giving、warm-glow と呼ばれている) を持つとき、大人数による慈善的寄付行動は協調ゲーム (coordination game) として表せることを指摘した。

次に、協調ゲームの分析において近年発展してきた大域的ゲーム (global game) の方法 (Carlsson and von Damme, 1993) を用いて均衡を求め、比較静学を行った。その結果として、単純に水面下での募金のおかげで目標達成に必要な残りの額が減る、そのこと (threshold shift effect) のみから、一般からの総寄付額、および実際に寄付をする人の割合が増えることを示した。

この経験則についての他の有力な理論として、先行して寄付を約束する人の存在がプロジェクトの質の指標になる (quality signal effect) というモデルが存在する (Vesterlund, 2003)。本論文ではこれと対立することなく、並列しうる別の理論づけを行ったと言える。

Selected References

- Andreoni, J., 1998. Toward a Theory of Charitable Fund-Raising. *Journal of Political Economy* 106 (6), 1186-1213.
- Carlsson, H., van Damme, E., 1993. Global Games and Equilibrium Selection. *Econometrica* 61 (5), 989-1018.
- List, J. A., Lucking-Reiley, D., 2002. The Effects of Seed Money and Refunds on Charitable Giving: Experimental Evidence from a University Capital Campaign. *Journal of Political Economy* 110 (1), 215-233.
- Vesterlund, L., 2003. The Informational Value of Sequential Fundraising. *Journal of Public Economics* 87 (3-4), 627-657.